

国際会議等参加旅費補助金報告書

2015年 2月 2日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 一橋大学大学院社会学研究科

氏 名 竹部 成崇



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	The 18 th Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology (第18回パーソナリティ社会心理学会年次大会)
公式ホームページ URL	http://meeting.spsp.org/2017/
開催期間	2017年1月19日～2017年1月21日
旅行期間	2017年1月17日～2017年1月22日 (申請書では1月18日～としておりましたが、予算の都合で より安価な1月17日着の便に変更しました)
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Henry B. Gonzalez Convention Center, San Antonio, Texas, USA アメリカ合衆国 テキサス州 サンアントニオ henry-B ゴンザレスコンベンションセンター
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	竹部成崇(一橋大学大学院社会学研究科) 松崎圭佑(首都大学東京大学院人文科学研究科)
発表題目 ※正式名と日本語訳	The motivation gap: Subjective social class affects achievement motivation via sense of control 意欲の格差 —主観的社会階層はコントロール感を介し達成動機づけに影響する—
補助金額	80,000円(内訳 宿泊費・航空券代の一部として)

- 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は貴学会の国際会議等参加旅費補助を受け、The 18th Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychologyに参加し、研究発表を行いました。以下に活動概要と、参加・発表による成果を報告いたします。

活動概要

アメリカ合衆国テキサス州サンアントニオにあるヘンリーB ゴンザレスコンベンションセンターにて、2017年1月19日から21日に亘って開催されたThe 18th Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychologyに参加した。1日目に開かれたPreconferenceでは、社会心理学とパーソナリティ心理学に関する様々なテーマごとに、シンポジウムやポスター発表が行われた。報告者はSocial CognitionのPreconferenceに参加し、「Why do the poor donate more? The effect of money scarcity on causal attribution of others' difficulties」という題目で30分のポスター発表を行った。2日目、3日目には多くのシンポジウムや口頭・ポスター発表が行われた。報告者は3日目の夕方に「The motivation gap: Subjective social class affects achievement motivation via sense of control」という題目で90分のポスター発表を行った。

成果

1. 自身の研究発表

発表内容は、主観的社会階層と達成動機づけの関連を検討するものであった。先行研究から、低い階層は様々な資源の欠如や服従的な地位と関連し、結果としてコントロール感の欠如と関連することが示唆されていた。また動機づけ研究では、コントロール感は動機づけを規定する重要な要因であることが示唆されていた。そこで本研究は、主観的社会階層がコントロール感を介して達成動機づけにも影響するかどうかを検討した。その結果、語彙生成課題を用いて測定した達成動機づけの行動指標については、予測通りの結果が得られた。しかし、課題後に自己報告形式で尋ねた達成動機づけは、主観的社会階層ともコントロール感とも関連していなかった。

発表では、自身が注目していた人を含む、多くの研究者に来てもらうことができた。「興味深い研究だ」「論文にしたら教えてほしい」といった意見とともに、「なぜ自己報告の方については関連が見られなかつたのか」「語彙生成課題は能力も反映されている可能性はないのか」といった質問を受けることや、「主観的階層やコントロール感を操作した実験は行っていないのか」「行うとしたらどのように操作するのか」といった今後の研究についての意見を求められることもあった。議論をする中で、自分1人では気がつかなかつた問題点や、それを解決するための示唆を得ることができた。

なお、1日目に参加したSocial CognitionのPreconferenceにおいてもポスター発表を行った。短い発表時間であったが、こちらについても多くの方々から意見をもらうことができた。

2. 他の研究発表

1日目のSocial Cognition Preconferenceは「現実社会への貢献」がテーマとなっており、教育・性的マイノリティ・HIVなどの問題に関わる社会的認知研究が発表され、現実社会における問題に社会心理学が取り組む必要性・意義を再確認することができた。また、新たな理論やモデルを構築しEarly Career Awardを受賞した2人の若手研究者による発表が行われ、大きな刺激を受けた。2日目、3日目は、自身の関心である「格差」や「資源」に関わる発表を中心に行って回り、最新の動向を確認することができた。

今回の学会大会参加にあたり、国際会議等参加旅費補助金を下さり、誠にありがとうございました。上記の経験や成果は、今回の参加なくしては得られない貴重なものでした。この大会参加で得たことを今後の研究活動に活かしていく所存です。心より感謝申し上げます。

1 この報告書は帰国後2ヶ月以内に提出して下さい。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016年 7月 14日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 東京女子大学大学院人間科学研究科
博士後期課程

氏 名 乙訓輝実



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	The 16 th Annual Meeting of the Vision Sciences Society (視覚科学会第16回大会)
公式ホームページ URL	http://www.visionsciences.org
開催期間	2016年 5月 13日 ~ 2016年 5月 18日
旅行期間	2016年 5月 11日 ~ 2016年 5月 22日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Trade Winds Island Resorts, St. Pete Beach, Florida (トレードウィンズアイランドリゾート、セントピートビーチ、フロリダ)
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	乙訓輝実・小田浩一 東京女子大学
発表題目 ※正式名と日本語訳	Effect of Visual Acuity and Duration of Dynamic Facial Expression on Perceived Emotion (視力と表情変化時間が知覚される情動に与える影響)
補助金額	80,000円(内訳 旅費 195,020円の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

【活動内容】

アメリカ合衆国の St. Pete Beach で開催された The 16th Annual Meeting of the Vision Sciences Society (以下、VSS) に参加し、ポスター発表をおこなった。大会の会期は 2016 年 5 月 13 日～18 日の 6 日間であった。申請者の発表日は 5 月 18 日の午前であり、「Effect of Visual Acuity and Duration of Dynamic Facial Expression on Perceived Emotion」の題目でポスター発表をおこなった。大会会期中はシンポジウムやオーラルセッション、他の参加者のポスター発表に参加し、視覚科学に関する最新の知見を得ることができた。以下に、参加活動の内容とその成果および補助金の使用状況を報告する。

【成果】

1. 自身の研究発表

発表内容は、表情を判断するために必要なサイズ（臨界顔サイズ）を超えた刺激サイズと未満の刺激サイズを用いて、視力と変化時間が表情の見え方にどのような影響を与えるかを検討した。その結果、臨界顔サイズを超えた刺激サイズでは、どの視力でも表情を正しく回答できた。一方、臨界顔サイズ未満の刺激サイズでは、全ての視力条件で表情を判断することが難しかったが、時間が加算されることで快不快の判断が可能になることが示され、表情認知における臨界顔サイズの重要性が再確認された。

申請者の発表は大会会期の最終日であったが、約 10 人の方がポスターに足を運んでくれた。一人一人に対しポスターの内容を詳しく説明するだけの十分な時間があったため、関連領域の研究者から刺激や結果に関する質問や発表に対する助言を頂き、大変有意義な時間となった。また短い時間で分かりやすく丁寧に発表する重要性を深く実感した。

2. 他の研究者の研究発表など

本学会でおこなわれた研究発表は、オーラルセッションが 1 日約 10 件とポスター発表が約 120 件という多様な分野の発表がすべての会期日程でおこなわれた。申請者はその中でも近年注目されている deep learning や individual difference 等の口頭発表に参加した。individual difference はラピッド・オーラル・セッションであり、ひとり辺りスライド 2 枚で自身の研究分野の知見を発表するというセッションであり、要点以外を削ぎ落とす困難さ、誰にでも分かりやすく研究内容を伝える重要性を学んだ。

また、ポスターセッションには申請者の研究分野である Face Perception に関連した研究が多数発表されていた。会期中全てのポスターセッションに Face Perception のセクションが存在し、申請者が発表をおこなった情動の観点だけではなく、個人差や障害、社会的認知といったさまざまな観点から顔知覚についての知見を得ることのできた非常に有益な機会であった。

【補助金の使用状況に関する報告】

補助を受けた 80,000 円は、往復航空券旅費 195,020 円（領収書添付）の一部として全額使用した。今回 VSS で発表した内容は、学会終了後にアメリカのミネソタ大学の Gordon Legge 教授のもとにおいても発表した。

【最後に】

この度は、国際学会への参加旅費補助金を与えてくださった日本心理学会、ならびに選考委員の先生方に心より御礼申し上げます。今回の国際学会で得た経験を今後の研究に活かして、より一層、精進して参ります。

1 この報告書は帰国後 2 ヶ月以内に提出して下さい。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016年 7月 11日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名東京女子大学大学院 博士後期課程 2年

氏 名 大西 まどか



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	Vision Sciences Society Sixteenth Annual Meeting 視覚科学会 第16回大会
公式ホームページ URL	http://www.visionsciences.org/
開催期間	2016年 5月 13日 ~ 2016年 5月 18日
旅行期間	2016年 5月 10日 ~ 2016年 5月 23日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Tradewinds Island Resorts, St. Pete Beach, Florida, US アメリカ合衆国フロリダ州, セント・ピート・ビーチ, トレードウィンズ・アイランド・リゾート
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	大西まどか ¹ ・乙訓輝実 ¹ ・高橋あおい ¹ ・杉山美智子 ¹ ・開本真子 ¹ ・川村禎恵 ² ・ 鈴木淳生 ² ・大島祐太 ² ・小田浩一 ¹ ¹ 東京女子大学, ² 共同印刷株式会社
発表題目 ※正式名と日本語訳	Effects of Luminance Contrast and Character Size on Reading Function. 輝度コントラストと文字サイズが読書閲数に及ぼす影響
補助金額	80,000円(内訳 航空券代の一部として)

- 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、国際会議等参加費補助金をいただき、心より感謝を申し上げます。今回の学会参加等で得た知識や経験を活かし、より一層研究に励んでまいる所存です。以下に概要をご報告致します。

活動内容

2016年5月13日から18日まで、アメリカ合衆国フロリダ州で開かれた Vision Sciences Society Sixteenth Annual Meeting(VSS 2016)にて、ポスター発表を行った。VSSは、心理物理学や神経科学、コンピュータサイエンスや認知心理学など、多様な専門領域の研究者が視覚に関する研究を報告する国際学会で、2001年から毎年開催されている。5日間に渡ってシンポジウム、特別講演、トーク、ワークショップ、口頭講演やポスターセッション等が行われ、申請者は最終日の朝のセッション(8時30分～12時30分)でポスター発表を行った。

成果

1. 申請者の研究発表

申請者の発表題目は「Effects of Luminance Contrast and Character Size on Reading Function (日本語題目 輝度コントラストと文字サイズが読書閾数に及ぼす影響)」であった。文字の輝度コントラストと読書パフォーマンスの関係を定量的に検討したものである。文字サイズを変えながら音読時間を測る読書評価実験を、様々な輝度コントラストを持つ文章において実施した。輝度コントラストの減少が読書に与える影響を、網膜コントラスト感度閾数および文字認知に重要な物体周波数から説明することができた。

最終日の朝のセッションであったため、前日よりも参加者が少なかったが、申請者の研究領域へ高い関心を持った訪問者が多かった。同様の読書評価を用いている研究者、および、文字認知やコントラスト感度に関心のある研究者から質問を受けることが多く、有意義かつ活発な議論をすることができた。また、本研究の先行研究を行った著名な Denis Pelli 教授から直接コメントをいただいた。特に、緻密な分析と精度の高い予測結果に対してポジティブなフィードバックをいただくことができ、今後の研究への土気が高まった。

2. その他の発表・活動

ポスター発表を中心に、主に物体認知や低次視覚、コンピュータビジョン関連の研究発表を多数拝見した。弱視やロービジョン等の眼科に近い領域で活動する視覚科学研究者とも議論を交わすことができた。眼科に近い領域で基礎的な視覚科学を研究する研究室は国内には少ないので、今後とも交流を続けていきたい。

また、学会企画の Meet the Professor に参加した。各領域における大家の研究者とお茶を飲みながら直接話ができる、という企画で、今年初めて実施されたイベントであった。申請者が参加したテーブルには学生やポスドクが約8名おり、著名な Andrew Watson 氏を囲んでざつくばらんに質問や相談をした。他国で研究活動を行う若手研究者の、キャリアに関する悩みや研究に対する考え方について、生の声を聞くことができた。それらの悩みや相談に対する Watson 氏の回答も、非常に率直かつ有益なものであった。このような機会は国内学会でも例がなく、懇親会などでは声をかけにくい大御所との時間に大変多くの刺激を受けた。

学会後に、ミネソタ大学で開かれた Center for Applied & Translational Sensory Science (CATSS)のシンポジウムに参加した。また、ロービジョンの問題を心理物理学的に研究する領域のパイオニアといえる Gordon Legge 教授の研究室を訪問した。研究室の施設や現在行われているプロジェクトの説明を聞くことができ、多くの学びを得た。前述した VSS での発表内容を口頭で発表する機会もいただき、VSS に来られなかつた若手研究者や Legge 教授から犀利な質問を受けたり、建設的な議論を交わしたりと、大変貴重で有意義な時間を過ごすことができた。

1 この報告書は帰国後2ヶ月以内に提出して下さい。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016年7月21日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 東京女子大学大学院

氏名 高橋 あおい



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	Vision Science Society 2016 アメリカ視覚科学会 2016
公式ホームページ URL	http://www.visionsciences.org
開催期間	2016年 5月 13日 ~ 2016年 5月 18日
旅行期間	2016年 5月 10日 ~ 2016年 5月 21日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	St Pete Beach, FL, United State アメリカ合衆国 フロリダ州 セント・ピート・ビーチ
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	高橋あおい (東京女子大学大学院 人間科学研究科) 小田浩一 (東京女子大学大学院 人間科学研究科)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Effect of Stroke Frequency and Critical Contrast Component on Legibility of Outlined and Solid Chinese Characters (線頻度とコントラスト成分が袋文字と非袋文字の視認性に与える影響)
補助金額	80000円 (内訳: レンタカー・航空券代 19,5020円の一部)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピーを添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、報告者の国際学会参加に対して、日本心理学会より「国際会議等参加旅費助成金」を頂戴したことを、心より感謝申し上げます。以下にその報告をさせて頂きます。

【概要】

2016年5月13日から2016年5月18日までアメリカ・フロリダで開催されたVision Science Society 2016(VSS2016)にてポスター発表を行った。学会には初日より全日程参加し、Vision Science の最新の研究発表を聞き、専門を同じくする研究者と交流をした。

VSS2016は、90～120分に渡るTalkセッションと、1ラウンド4時間のポスターセッションが並行して終日続く学会であった。報告者はこの学会に初めて参加し、周囲に特に何もない海辺のリゾートで缶詰にされて勉強する環境を多いに満喫した。

【成果】

1. 報告者の発表内容

報告者の発表は、文字認知についての研究であった。輪郭線だけからなる袋文字は普通の文字に比べて認知閾が高くなり視認性が低くなることが知られている。高橋・小田(2014)は認知閾を線頻度と観察者の視力から予測したが、本研究では、これに文字認知に重要と言われる1-4cplの空間周波数帯域のコントラスト成分を加えて説明し、認知閾をよりよく予測することに成功した。

2. 報告者の発表についての周りの反応

報告者のポスター発表は、5月18日8:30am-12:30pmであった。前日深夜まで学会主催のパーティーが開催されていたことや(翌朝の発表のことを考えて報告者は不参加)、そもそも最終日の午前中という時間帯だったことが影響してか、残念ながら聴衆は少なかった。しかし、発表を聞きにきてくれた人は専門を同じくする人がほとんどあり、時間をかけて1人1人とゆっくり意見交換ができる有意義な発表であった。特に、先行研究として読み込んだ論文を書いた、偉大な研究者に発表を聞いてもらうチャンスがあったことは、筆舌に尽くし難い素晴らしい経験となった。

3. その他の成果

国内外問わず関連する研究をする研究者と知り合いになり、新しい研究についてのアイディアを交わした。次の研究に関するよいヒントも得ることができた。また、兼ねてより興味を持っていた、脳の視覚処理や色知覚のメカニズムについての最新の研究についても学ぶことができた。

1 この報告書は帰国後2ヶ月以内に提出して下さい。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016年 8月 8日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
博士課程後期課程
氏 名 松木 太郎



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	24th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Development 国際行動発達学会 第24回大会
公式ホームページ URL	http://www.issbd2016.com/
開催期間	2016年 7月 10日～2016年 7月 14日
旅行期間	2016年 7月 9日～2016年 7月 13日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Lithuania, Vilnius, Radisson Blu Hotel Lietuva リトアニア, ビリニュス, ラディソン・ブルー・ホテル・リエッヴァ
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	松木 太郎 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Relationships between negative urgency and problem behaviors in early adolescence: The moderator effect of effortful control 思春期におけるネガティブな切迫性と問題行動の関連： エフォートフル・コントロールの調整効果に着目して
補助金額	80,000円(内訳 航空券代の一部として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、国際行動発達学会第 24 回大会への参加にあたりまして、国際会議等参加旅費補助金をいただきましたことを心より感謝申し上げます。以下で、本大会での活動内容および成果について報告させていただきます。

活動内容

リトアニアのラディソン・ブルー・ホテル・リエッヴァで 7 月 10 日から 7 月 14 日にかけて開催された 24th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Development (国際行動発達学会第 24 回大会) に参加した。報告者は、7 月 11 日に Relationships between negative urgency and problem behaviors in early adolescence: The moderator effect of effortful control (思春期におけるネガティブな切迫性と問題行動の関連: エフォートフル・コントロールの調整効果に着目して) という題目でポスター発表を行った。本大会では、人間の発達科学に関する研究発表が講演、シンポジウム、ポスター発表、ワークショップなどにおいて行われた。

成果

【報告者の研究発表】

報告者の研究発表は、思春期におけるネガティブな切迫性（不快な情動を経験した際に、衝動的に行動する傾向）の問題行動（身体的攻撃行動、言語的攻撃行動、反社会的行動）への影響の仕方が、エフォートフル・コントロール（行動始発の制御、注意の制御、行動抑制の制御から成る自己制御に関する能力）によってどのように調整されるかについて検討するものであった。研究結果から、エフォートフル・コントロールが高い場合は、エフォートフル・コントロールが低い場合に比べ、ネガティブな切迫性の身体的攻撃行動および言語的攻撃行動に対する促進的な影響力が低下することが明らかになった。一方で、反社会的行動については、エフォートフル・コントロールの調整効果はほとんど認められないことが明らかになった。質問者からは、日本の青年のネガティブな切迫性やエフォートフル・コントロール、問題行動の学年差や性差に関する質問や、青年のエフォートフル・コントロールの発達を促す要因は何かといった質問をいただいた。英語を用いて自身の研究について説明することや質問に答えることの難しさを感じながらも、質問者の方々と有意義な意見交換をすることができた。

【参加した研究発表】

自身が関心をもつ研究領域を中心に、講演やシンポジウム、ポスター発表を聴講した。報告者は主に心理学的観点から青年期における問題行動の促進要因や防御要因について研究してきたが、本大会において様々な研究発表を聴講する中で、心理学的観点のみならず、行動遺伝学、神経生物学といった観点から多角的に青年の行動や発達を捉えていくことの重要性を改めて実感した。とくに、報告者が本大会の研究発表で取り上げたエフォートフル・コントロールと類似する概念である実行機能の発達をテーマにした Dr. Philip D. Zelazo による講演 (Reflection Training: Executive Function and the Developing Brain) は、報告者の今後の研究に有益な示唆をもたらすものであった。ポスター発表会場では、報告者と同世代の海外の大学院生と研究について話すことができ、国際学会ならではの醍醐味を味わうことができた。

最後に

今後は、本大会で得られた知見を自身の研究に活かしていくとともに、国際会議においてより充実した議論ができるように、英語による円滑なコミュニケーションがとれるよう精進していきたい。

1 この報告書は帰国後 2 ヶ月以内に提出して下さい。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016年 7月 6日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科
心理臨床学専攻修士課程

氏 名

森川 貴嗣



下記のとおり国際会議等参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	The 28th Association for Psychological Science (APS) Annual Convention 第28回心理科学学会(=旧アメリカ心理学協会)
公式ホームページURL	http://www.psychologicalscience.org
開催期間	2016年 5月 23日 ~ 2016年 5月 29日
旅行期間	2016年 5月 24日 ~ 2016年 5月 29日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	USA・CHICAGO・Sheraton Grand Chicago アメリカ合衆国・シカゴ・シェラトングランドシカゴ
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	森川貴嗣(関西福祉科学大学)・亀島信也(関西福祉科学大学)・彦次佳(和歌山大学) 駒野浩士(兵庫教育大学)・長見まき子(関西福祉科学大学)
発表題目 ※正式名と日本語訳	How Music With Lyrics Affect the Mood of College Students 歌詞のある音楽が大学生にどのような影響を及ぼすか
補助金額	80,000円(内訳 航空券代及び宿泊費の一部として)

- 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

以下に学会での活動、自身の研究発表を含む参加によって得られた成果などをご報告申し上げます。

・活動内容

2016年5月26日から29日に米国シカゴにて開催された The 28th Association for Psychological Science (APS) Annual Convention (第28回心理科学学会)に参加、及びポスター発表を行いました。

本学会は、アメリカ合衆国における科学的な心理学の学会であり、会期中は各種シンポジウム、各種ワークショップ、及びポスター発表などが行われていました。ポスター発表は75領域に分かれしており、様々な心理学分野の発表が数多く行われました。発表者も、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカなど世界中から参加し、最新の研究結果について活発な討議がなされていました。

・研究発表の成果

申請者は5月28日(土)午前8:30~9:20にポスター発表を行いました。発表題目は「How Music With Lyrics Affect the Mood of College Students」(歌詞のある音楽が大学生にどのような影響を及ぼすか)です。今回の発表内容は大学生113名を対象に、音楽の歌詞に注目した楽曲を試聴時にどのような影響があるのか、具体的に言えば、前向きになるメッセージを含む歌詞のある楽曲を試聴した際に前向きな感情になるのかなどが検討されました。

発表中、大学院生や研究者などが足を止めて発表に耳を傾けてくださり、また様々なご意見やご質問を頂戴することができ、実りある発表となりました。

初めての英語での発表という点において、細かいニュアンスを伝えることや言い回しなどに苦労し、質問などにも繰り返し聞き直す場面などもありましたが、日本からの発表者という事で、私の拙い英語でもしっかりと耳を傾け理解しようとしてくださる場面があり、大変嬉しかったです。

・他の研究発表

4日間の開催期間の全日参加させていただきました。ポスター発表ではアメリカ国外の研究者も多く見られ、申請者の発表した音楽や感情についての研究発表も数多く見られ、様々な研究者と交流を持ち、意見交換などを行いました。

シンポジウムにおいても、TED(学術分野などの専門家による講演会)などでもプレゼンターとして登壇されている研究者もおられ、日本ではなかなか勉強できない一流のプレゼンテーションを生で経験をさせていただきました。

・最後に

この度は、The 28th Association for Psychological Science (APS) Annual Conventionへの参加にあたりまして、国際会議等参加旅費補助金をいただきましたことを、心より厚く感謝申し上げます。今後は、さらに研鑽を積み精進して参りたいと存じます。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016年 12月 17日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 お茶の水女子大学大学院 人間文化
創成科学研究科人間発達科学専攻博士後期課程 3年

氏 名

吉武 美紀



□
下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	SEPI XXXII ANNUAL MEETING (心理療法統合学会 第32回年度大会)
公式ホームページ URL	http://www.sepiweb.org/?
開催期間	2016年 6月 16日 ~ 2016年 6月 18日
旅行期間	2016年 6月 15日 ~ 2016年 6月 19日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Ireland, Dublin, Trinity College College Green (アイルランド, ダブリン, トリニティカレッジ, グリーンカレッジ)
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	吉武美紀 (お茶の水女子大学大学院)
発表題目 ※正式名と日本語訳	How client's positive emotions work in psychotherapy process ?: Qualitative research. (クライエントのポジティブ感情は心理療法プロセスにおいていかに働いているか? : 質的研究)
補助金額	80000円 (内訳 航空機運賃 91340円)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

2016年6月16日～6月18日に、アイルランドダブリントリニティ大学グリーンカレッジにて開催された、第32回心理療法統合学会(SEPI 32nd Annual meeting)に参加して参りました。

当初は成田空港～ロンドンヒースロー空港を経由し、6月15日の夜にダブリンへ到着する予定でしたが、ロンドン行きの航空機器のトラブルにより遅延が発生し、当日中にアイルランドダブリン空港に向かうことができず、当初宿泊予定であったダブリンのホテルの代わりに、ロンドンヒースロー空港にて1泊いたしました。翌日16日、早朝のフライトでアイルランドダブリンに到着しました。アイルランドは冬のように寒く、ダウンコートが必要なほどでしたが、一方人々や町並みは素朴であたたかい雰囲気に包まれていました。

初日～中日の夕方は、開会宣言のあとシンポジウムといくつかのパネルディスカッションが行われました。私は17日19時からのポスターセッションで、心理療法のセッション中にクライエントが体験するポジティブ感情をテーマに発表いたしました。ポジティブ感情の発現機序および治療的作用について、クライエントに対してインタビュー調査を行った結果を、グラウンディッドセオリーアプローチを用いて分析しました。心理療法におけるクライエントの感情を取り上げる場合、怒りや悲しみといったネガティブ感情が焦点となることが多い中、ポジティブ感情を取り上げている点が斬新でよいという意見や、ポジティブ感情は治療促進的に働く一方、クライエントの状態や、ポジティブ感情を喚起した要因によっては、治療妨害的に働く可能性もあるという結果が興味深いというコメントを頂戴しました。

他の参加者の方々の発表では、クライエントの自殺を経験したセラピストの体験に関する研究や、キリスト教の考えと心理療法の統合に関する発表が強く印象に残りました。いずれの発表も、心理療法とは、クライエントのみならずセラピストの人間性や人生観と深く交わる、実に奥深いものであることを改めて感じさせられるものでした。

航空機のトラブルに見舞われたり、ホテルに宿泊できず空港で一人一夜を明かさねばならなかつたときには、心細く、くじけそうになりましたが、厳しい体験乗り越えたことは私の自信となりました。他の研究や臨床を行いながら、この学会発表のため英語でのデータのとりまとめ、ポスターの作成を進めることも私には容易なことではありませんでしたが、その分発表を終えた時の達成感も大きいものでした。事務手続き等で多々ご迷惑をおかけしましたが、このたびご寛容にもご支援くださいました、日本心理学会様に心より御礼申し上げます。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016 年 9 月 1 日

(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 名古屋大学大学院環境学研究科
博士課程前期課程 2 年

氏 名 武野 全恵



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	The 6th International Conference on Memory 国際記憶学会 第6回大会
公式ホームページ URL	http://www.jcom2016.com
開催期間	2016年 7月 17日 ~ 2016年 7月 22日
旅行期間	2016年 7月 16日 ~ 2016年 7月 24日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Hungary Budapest Faculty of Science Campus, ELTE University ハンガリー ブダペスト ELTE 大学
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	武野全恵 ¹ ・上野泰治 ² ・Richard J. Allen (リチャード J. アレン) ³ (¹ 名古屋大学大学院, ² 高千穂大学, ³ リーズ大学)
発表題目 ※正式名と日本語訳	If you run after two hares within visual working memory, you might catch both: Exploring the effect of retro-cueing multiple items after item offset 視覚的作動記憶内では、二兎を追う者は二兎を得るか —複数項目への逆向手がかりの効果からの検討—
補助金額	8,0000 円 (内訳 114,130 円の航空券代の一部として)

- 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、公益社団法人日本心理学会より国際会議等参加旅費補助金制度による助成を受け、The 6th International conference on Memory に参加し、ポスター発表を行いました。本学会参加に対して補助金を支給してくださいました日本心理学会および関係者の皆さんに感謝し、活動内容とその成果について以下のようにご報告いたします。

1. 活動内容

The 6th International Conference on Memory は、2016年7月17日～7月22日にかけてハンガリー・ブダペスト市・Eötvös Loránd Tudományegyetem 大学にて開催された。本学会は、記憶研究を取り上げた数年に一度の国際学会であり、今回は1000人を超える世界中の記憶研究者が参加した。報告者らは、7月18日のPoster session にて”If you run after two hares within visual working memory, you might catch both: Exploring the effect of retro-cueing multiple items after item offset” という題目でポスター発表を行った。

2. 自身の研究発表について

報告者らの発表内容は、複数の情報が短期的に記憶（保持）されている（情報がワーキングメモリ内に保持されている）とき、それらの情報が知覚的に目の前から消えたとしても、あとから一部の情報を他よりも意図的に優先して保持し、思い出すことができるのかを検討したものである。先行研究では特別な条件下であれば、複数のワーキングメモリ内の情報を優先的に保持して思い出すことが出来ると主張されていた。しかし、報告者らの研究では、そのような特別な条件下でなくとも、情報が目の前から消失した後に、記憶内の表象を使って複数情報を優先して保持できることを明らかにした。

本学会では、主催者が長期記憶を主に取り扱っている研究者であったことや、前回の学会がワーキングメモリ主体であったことから、ワーキングメモリや短期記憶を専門とした研究者の参加は少なかった。また、報告者らのポスターの掲示場所が会場の端であったためか、発表への訪問者は予測より少なめであった。そのため、意見交換や議論は期待していたほどはできなかつたが、同じようなワーキングメモリ研究を専門とする訪問者や本発表内容についてあまり詳しくはない訪問者に対して、ポスター説明の詳細さを変化させるなど、海外での研究発表における説明能力の向上につなげるような発表と経験が出来た。一方で、今回のポスター発表を通じ、報告者は自身の海外におけるコミュニケーション能力の不足を感じたため、今後、さらなる語学力や説明力を身に着けるため、一層の努力をしたい。

3. 学会参加状況

学会におけるすべての発表は記憶に関する内容であり、分野の近い研究の内容を毎時間聴くことができた。そのため、発表後の質疑応答などでは、専門的で本質を突いた質問がされる場面が多く見受けられた。発表だけでなく質問内容やそれに対する応答からも、自らの研究を発展させるような興味深い意見や研究を知ることができ、非常に有意義な時間を過ごすことが出来た。さらに、次のセッション開始時間まで余裕をもって発表が終わったセッションでは、余った時間の中で発表者と聴衆による議論が繰り広げられることがあった。限られた研究分野で開催される学会ならではの場面に居合わせることができ、良い経験となつた。また、発表テーマとして睡眠と記憶を題材にした研究が数多くあったことから、最近では睡眠が記憶に与える影響に関心が傾いているといった記憶研究の動向を知ることができた。

本学会の参加により、報告者は貴重な経験をすることができ、また今後の研究発展のための目標やそのために必要な能力を見出すことが出来た。今回得た貴重な経験をもとに、今後も積極的かつ有益な研究活動を行っていきたい。

1 この報告書は帰国後2ヶ月以内に提出して下さい。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2016年 7月 19日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 お茶の水女子大学大学院・博士後期課程

氏 名 中村 香理



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	47th Annual Meeting of the Society for Psychotherapy Research 第47回心理療法研究学会年次大会
公式ホームページURL	http://www.sprconference.com/
開催期間	2016年 6月 22日 ~ 2016年 6月 25日
旅行期間	2016年 6月 15日 ~ 2016年 6月 28日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Israel · Jerusalem · Jerusalem YMCA イスラエル・エルサレム・エルサレム YMCA
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	中村香理(お茶の水女子大学大学院)・ 岩壁茂(お茶の水女子大学)・福島哲夫(大妻女子大学)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Essential components of corrective emotional experience: A theory building case study 修正感情体験の本質的な要素:理論構築型事例研究
補助金額	80000円(内訳 航空券代の一部として)

- 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー、および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、47th Annual Meeting of the Society for Psychotherapy Researchへの参加にあたり、日本心理学会より国際会議等参加補助金をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。学会での活動、報告者の研究発表、参加により得られた成果について報告させていただきます。

【学会での活動】

報告者は、「Essential components of corrective emotional experience: A theory building case study」という演題で口頭発表を行うため、2016年6月22日から25日にかけて、イスラエルのエルサレムで開催された47th Annual Meeting of the Society for Psychotherapy Researchに参加した。本学会は、心理療法の実証研究に関わる国際学会であり、世界40カ国の研究者が所属している。初日はPre-Conference Workshopが開催され、翌日から3日間に渡ってSemi-Plenary、Structured Discussion、Panel、Brief Paper Session、Poster Sessionなどが行われた。報告者は最終日の25日に発表を行った。

【報告者の研究発表】

報告者は、心理療法のアプローチを越えて共通の変容メカニズムの一つとされる「修正感情体験」に焦点を当てた研究について口頭発表を行った。修正感情体験とは、クライエントの過去の痛みを伴う感情体験がセラピストとの好ましい治療関係の中で変容されるプロセスをさす。これまでに報告者は、実際の心理療法の中で修正感情体験が起こった面接場面を集め、どのようなステップでそれが起こったのかをモデル化する研究を行った。そして、本学会では、修正感情体験が起こった1事例を題材にそのモデルを検証・精緻化する研究について発表した。発表では、問題と目的、方法、結果の概要を口頭で説明した後、修正感情体験が起こった実際の面接場面のビデオを、英語の字幕をつけて提示した。最後に考察について口頭で説明し、聴衆から質問やコメントなどを受けた。聴衆からは、研究結果と提示した面接場面において見られた現象のズレに関する指摘があった。一方で、修正感情体験のプロセスを明らかにすることや、実際の心理療法の中で起こる現象を詳細に検討していくことの意義は評価された。

【参加により得られた成果】

上記の研究発表において、聴衆からの質問やコメントから、今後研究をどのようにプラッシュアップさせていくのかに関する示唆が得られた。また、心理療法研究の大きな流れの中で、報告者の研究がどのような位置づけにあるのかを改めて確認することができた。英語での口頭発表も初めてであったため、準備から発表までの一連の流れを体験することができ、貴重な機会となった。

本学会では、自身の発表以外にもたくさんの研究発表やディスカッションに参加することができた。特に、同じ研究領域の研究者がどのように研究を進めているのかを知ることができ、良い刺激となった。また、心理療法と文化に関する発表やコメントを聞き、文化的な要素が自身の研究にどのように影響を与えているのかということも意識しておくことが重要だと気づかされた。

最後に、今回の研究発表についてご指導いただきました、お茶の水女子大学岩壁茂准教授、大妻女子大学福島哲夫教授に心より感謝申し上げます。

1 この報告書は帰国後2ヶ月以内に提出して下さい。